二中学区小中一貫通信　第4号

令和5年11月15日（水）　発行：小中一貫プロジェクト委員（緑小：鯉淵）

こんにちは。小中一貫プロジェクト委員（二中：中里、祇園小：木下、緑小：鯉淵）です。下野市の樹である「けやき」も美しく色づく季節となりました。先生方はいかがお過ごしですか。

本日は、いよいよ部会ごとの２年間の活動をまとめていただきます。どうぞよろしくお願いします。

〔第４回プロジェクト委員会（８／１）の様子をお伝えします。〕

1　担当校長あいさつ　　**緑小学校　鈴木　寧子校長先生**

これまで３回の研修を重ね、各部会で活発な議論が成されてきました。その様子は、まるで当たり前に行われている職員室のようであり、特別なものではなくなってきた感があります。先日の「子ども未来プロジェクト」（７／２１（金）実施）では、中学生が小学生をよくリードし、活発に考えを交流し、合意形成が成されている姿が見られました。児童生徒たちの表情もとてもよく、時には小学生が“この言葉は小学生には分かりません”などはっきりと意見を言う場面では、中学生がしっかりと受け止める様子が見られ、これは、まさに小中交流の成果であり、このように育ててくださっている先生方に感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

2　各部会活動報告

〇授業研究チーム

（国語科）

次の３つについて話合いを行いました。

①７／３１緑小Ｓ&Ｕ研修会に参加した二中の先生より、中学校でも取り入れられそうな実践について

②「話し方・聞き方名人」掲示物を活用した指導の実際と児童の変容・成果について

③９月からの実践についての確認

・「話し方・聞き方名人」を意識して学習することにより、どのような効果があるのか児童生徒自身に気付きをもたせる。

・児童生徒にとっての話しやすい環境とは・・・学級づくり・学級経営の観点から

・国語部員以外のクラスでの実践の様子の確認、情報交換

（外国語科）

小学校での授業実践例の紹介を行いました。

その後、１２月１日コミュニケーションデイについての打合せを行いました。緑小の実施日なので、緑小にALT８名で１４グループ、祇園小にALT１名で２５グループと計画しており、それぞれの小学校で実施方法が違います。

〇心づくりチーム

令和４年度までの成果と課題の確認と令和５年度からの取組についての確認をしました。

・低学年にとって小中一貫の意識が薄いため、実感を伴った小中一貫の取り組みとして、全中学生から「私の読んだ本の紹介」をカードに書かせ、小学生に渡す活動をしてはどうか。

・道徳の取組で「郷土愛」に対する意識が課題→単発的な授業にならないよう、すべての活動に道徳との関連を図り、児童生徒への意識づけを行う。

・学級力アンケートやいじめ防止強調月間においても、ねらいを明確にして、心づくり部会としての活動に統一性をもたてて取り組んでいきたい。

〇健康チーム

１１月の体力向上月間の取組について確認をしました。

（体育部）

・「二中学区体操」９月以降から運用を開始していきます。

・体力テストの結果を分析し、小中共通で平均に届かない種目について指導実践する。→家庭学習強調週間に使用する「がんばりカード」に運動に関する項目を追加してはどうか。

（栄養部）

・体力向上月間の献立が決まりました。

（保健部）

・長期休業明けに「生活習慣もどそうウィーク」として、健康チェックカードを使って実施します。

・１１月には、朝の放送で呼びかけたり、ストレッチ体操を取り入れたりするなど、姿勢指導を実施します。実施後はアンケートを行い、来年度に生かします。

〇つながりアクションチーム

・小中交流で決まったいじめ防止についてのスローガン
「お互いの個性を認め合い、笑顔の花を咲かせよう」
の掲示の仕方について話し合い、学校全体に周知していきます。

・小中交流クリーン活動についての確認として、班ごとにレクリエーションを行い、交流を深めてから作業をすることになりました。
また、レクリエーションの内容は小学生のリクエストで行うことになりました。

３　下野市教育委員会　石﨑　真清先生より

先日の「子ども未来プロジェクト」では、子ども主体で意見が活発に出されていました。また、中学生が話合いを上手にリードし、とても良いスローガンを決めることができました。クリーン活動についての話合いでは、小学生が積極的に意見を発表し、レクリエーションを取り入れて交流を図ることになりました。その外にも、二中学区では、あいさつ運動、小中音楽交流、体力向上月間の献立作成など、様々な活動が実施されており、これまでの児童生徒の変容や振り返りも成されていきました。これら前半の成果と振り返りを、後半の活動につなげていってほしいと思います。また、情報発信も今後もぜひお願いしたいと思います。